

第18回全日本実業団女子高壮年剣道大会



優勝◆パナソニック(ES門真)

菊池優香(22歳)、湯浅夏基(25歳)、寺浦仁美(22歳)。監督=酒井順也

3位◆パナソニック(ES本社)

元木あかね(23歳)、木下春菜(25歳)、藤山枝里佳(26歳)。監督=酒井順也

第18回全日本実業団 女子・高壮年剣道大会 やはり強い! パナソニック、 価値ある連覇

女子の部

平成27年3月7日(土)
東京武道館
主催◆全日本実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁、編集部



【中堅】湯浅(パナソニック・ES門真)②— 吉田(全日本武道具・本社)

▲試合開始からコテ、ツキと激しい攻めを見せ、自陣の応援団を沸かせた湯浅。何とかベースを取り戻したい吉田がひきドウを放って下がるが、湯浅はここを見逃さなかった。縁を切ることなく間を詰めた湯浅がメン(写真)。これが決まった

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック (ES門真)	①	菊池	湯浅	寺浦	1
	②	②	②	②	2
全日本 武道具 (本社)	③	田山	吉田	興梧	1
	④	④	④	④	0

ただの連覇ではなかった。前回大会を制したパナソニック(ES本社)は同社のAチーム。連覇を狙った今大会でも準決勝まで順調にコマを進めたものの、全日本武道具(本社)の前に敗退する。パナソニックを破った全日本武道具はこれで昨年の3位からひとつステップアップ。このまま一気に初優勝を狙いたいところだったが、ここで立ち上がったのがパナソニックのBチームであるES門真であった。

ES門真のメンバーは、本社チームとともに大阪で稽古を積む同門。今大会では先鋒に菊池(早稲田大学)、大将に寺浦



大同特殊鋼(本社)2—0 JR東日本リテールネット(本社)

【大将】吉本 ㊟— 里井

▲前回大会2位のJR東日本リテールネットは中堅戦で黒星を喫する苦しい戦い。大将戦、決死の攻めを見せる里井がやや強引にひきドウを放つと(写真)、その打ち終わりに吉本のメンが決まった



パナソニック(ES本社)2—0 大塚家具(横浜)

【先鋒】元木 ㊟— 矢野

▲上段に構える矢野に対して、ジリジリと攻め上げていった元木。狙い澄ました諸手ツキは見事に矢野ののど元をとらえた(写真)。勢いづくパナソニックは中堅の木下もコテで一本勝ち、勝負を決めた



【中堅】木下 (パナソニック・ES本社) ㊟— 戸島 (三菱電機・本社)

▲先鋒の勝利を受けた木下が伸び伸びと戦い、まずはドウで一本先取る。その後も戸島の反撃を許すことなく戦った木下。惜しいメンやコテで攻め立てると、最後は切れ味鋭いひきメンで勝負を決めた(写真)

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック(ES本社)	㊟	元木	木下	藤山	3
		㊟	㊟メ	㊟	4
三菱電機(本社)	㊟	緒方	戸島	鎌田	0
		㊟	㊟	㊟	0



大塚家具(本社)1代—1 富士ゼロックス東京(本社)

【代表】土井 — 奥村

▲日本一を経験しているチーム同士が激突。大将戦で大塚家具・菅原が勝利して代表戦へと持ち込んだ。先鋒の土井、大将の奥村の戦いは土井の力強いメンで決着となった(写真)



2位◆全日本武道具(本社)

田山佳奈恵(20歳)、吉田汐里(22歳)、興侶舞(33歳)。監督＝川辺尚彦



3位◆日通商事(本社)

古屋枝里香(24歳)、漆原千晃(31歳)、飯塚玲加(28歳)、大田樹里(23歳)。監督＝大野進



【代表】飯塚(日通商事・本社) — 東(アートコーポレーション・本社)

▲大将同士の対戦となった代表戦。東が諸手ツキ、逆ドウと激しく攻め立てるも惜しいところで決まらず。飯塚の粘りもあって勝負は長期戦に。最後は飯塚のコテが一本となった(写真は攻防)

チーム	順	先	中	大	得点	代
日通商事(本社)	㊟	古屋	漆原	飯塚	0	飯塚
		㊟	㊟	㊟	0	コ
アートコーポレーション(本社)	㊟	朝倉	松田	東	0	東
		㊟	㊟	㊟	0	東



【大将】興侶(全日本武道具・本社) — 金丸(パナソニック・ES東京本社)

▲大将戦、全日本武道具・興侶が劣勢をはね返す二本勝ちで代表戦へと望みをつないだ。大将戦の再戦となった代表戦、興侶が相手の虚を突くひきドウを放てばこれに審判の旗が二本上がる(写真)

チーム	順	先	中	大	得点	代
全日本武道具(本社)	㊟	田山	吉田	興侶	1	興侶
		㊟	㊟	㊟	2	ド
パナソニック(ES東京本社)	㊟	亀元	佐藤	金丸	1	金丸
		㊟	㊟	㊟	2	金丸

【大将】興侶(全日本武道具・本社) ㊟— 藤山(パナソニック・ES本社)

▲先鋒戦を全日本武道具、中堅戦をパナソニックが奪い、勝負は大将戦へ。連覇を狙うパナソニック・藤山に対して興侶がメンで一本(写真)。その後、場外に出てしまった藤山にこの試合二度目の反則が与えられた

チーム	順	先	中	大	得点
全日本武道具(本社)	㊟	田山	吉田	興侶	2
		㊟	㊟	㊟反	3
パナソニック(ES本社)	㊟	元木	木下	藤山	1
		㊟	㊟	㊟	1



【中堅】湯浅(パナソニック・ES門真) ㊟— 漆原(日通商事・本社)

▲日通商事が大会2度目の決勝進出にあと一步まで迫った。先鋒戦を引き分けに終えた後の中堅戦。試合開始から攻めに徹した湯浅が漆原の上からメンに乗って一本(写真)。その後も見事なメンを追加した

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック(ES門真)	㊟	菊池	湯浅	寺浦	1
		㊟	㊟	㊟	3
日通商事(本社)	㊟	古屋	漆原	飯塚	0
		㊟	㊟	㊟	0

(近畿大学)と今春入社予定の学生剣士を配し、中堅には昨年本社チームにて日本一の栄冠を味わっている湯浅を据えて戦いに臨んできた。

決勝戦、本社チームの敵討ちとばかりに、ES門真の攻撃力が炸裂。先鋒戦では菊池が試合開始すぐから相手を攻め立て、メンを先制。打突後に倒れ込みながらも執念で一本をもぎ取った。

三人制の戦いだけに先鋒戦での勝利は大きな意味を持つ。菊池の勝利を受けた湯浅もまた、一切の守りに入ることなく、開始から攻めに攻めてメンで勝利。大将戦を待たずしてチームの優勝を決めた。

「力は持っているとは思っていましたが、まさか優勝とは」と酒井順也監督も驚きを見せたBチームの底力。パナソニックがその層の厚さを存分に見せつけた。

【中堅】湯浅(パナソニック・ES門真) ㊟— 藤野(大同特殊鋼・本社)

▶先鋒戦で勝ち星を得て優位に立ったのはパナソニック。勝負どころの中堅戦でも湯浅が見事なコテを決めた(写真)。その後は藤野も果敢に攻めたが、湯浅も試合巧者ぶりを発揮し一本を許さなかった

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック(ES門真)	㊟	菊池	湯浅	寺浦	2
		㊟	㊟	㊟	3
大同特殊鋼(本社)	㊟	吉田	藤野	吉本	0
		㊟	㊟	㊟	0

